

- 着実に迅速に動く「楽しい学会」を目指して -

会 長 増田 優

新年おめでとうございます。

本学会は2004年1月に設立され3年が経過しました。石の上にも3年、活動も大幅に充実し、学会の形もみえてきました。これもひとえに会員の皆様方の積極的かつ献身的な活動に支えられてのことと感謝いたしております。

本年もまた、皆様と楽しく進んでまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。さて、昨年を顧みますと、2月には「石綿による健康被害の救済に関する法律」が成立しましたが、これは正に積年のつけを社会全体が背負うことになった誠に残念な事例でした。5月には一定の量を超えて農薬等が残留する食品の販売等を原則禁止するという新しい制度(ポジティブリスト制度)が施行になり、7月にはEUのRoHS規制が施行となりました。食品や電気機器などこれまでにない広い分野の方々が化学物質の管理に多くの労力を割く状況となりました。さらに、GHS制度が12月から始まり、化学物質審査規制法や化学物質管理促進法の見直し論議が始まるなど、化学物質総合管理を進めるうえでも重要な動きがありました。グローバルにみまると、2月に国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)が採択され、今後の化学物質総合管理の方向が明らかになりました。そして12月にはEUの新しい化学物質規制(REACH)が最終的に採択され、2007年6月1日から施行されることになり新たな段階に入ることになりました。

これらの動きを見ても、化学物質の管理は単なる管理の課題から経営の課題になっていきます。そして企業や産業の枠を超えて化学物質総合管理はあらゆるセクターの課題であることがますます顕著になってきています。

化学生物総合管理学会の活動としては、2006年には学会誌を2回発行し、過去3年間に5号全945ページの学会誌になりました。初めての試みである「OECD既存化学物質初期評価シリーズ」特集がシリーズものとして定着しました。秋の学術総会は農薬や食の安全に関する発表にも広がり、多様な方々に参加していただきました。更にテーマを絞って議論を深める場として春の討論集会も定例化することとなりました。学会の地道な活動の場である研究会はこの一年間で大きく進展し、学会の翼を大きく広げました。研究会活動を踏まえて、口頭発表や報文投稿に発展する事例も生まれていることは心強い限りです。2006年の「実践の年」という目標のもと、学会は大きく前進いたしました。活動に参画して下さった皆様の努力の結果であり、あらためて感謝申し上げます。

2007年は昨年までの基盤の上にたって更に着実に発展していくことを願っています。地道に足固めをしながら、物ごとの本質をきちんと見据えて行きたいと思います。そして物事を固定的にとらえずに様々な事象に関心を持ち取り組んでいく楽しい学会として、世の中に発信していきたいと思います。社会の透明性、公正性が問われる一方で国際性が必須

の条件になっている今日、迅速性も求められています。事務局の機能も強化しながら、皆様一人ひとりが時を失うことなく活躍できる場を提供する学会に発展するよう皆様と一緒に更に育てていきたいと思っています。学会は参画する方々の熱意の結晶であります。楽しくなければなりません。今年の目標は「楽しい学会の創造」ということで、楽しくやっ  
ていくことを至上命題として進んでまいりたいと思います。皆様のお力添えと参画をよろしく  
お願い申し上げます。

新たな年の始まりにあたりまして、皆様のご多幸とご発展を祈念申し上げます。

2007年1月